

報告事項

経済振興委員会報告資料

水素リーダー都市プロジェクトについて
(中部水素ステーションの機能強化)

令和3年12月

経済観光文化局

水素リーダー都市プロジェクトについて (中部水素ステーションの機能強化)

1. 概要・現状

- 水素社会の実現に向け「水素リーダー都市プロジェクト」を推進。
- 平成 27 年 3 月に、中部水処理センターにおいて下水汚泥を処理する過程で発生するバイオガスから水素をつくり、燃料電池自動車（FCV）へ供給する世界初の水素ステーションを開設した。
- これまでの 7 年間で国内外から約 6,000 名の視察を受け入れ、約 740 台の FCV へ水素を充填してきた。
- 平成 28 年以降、燃料電池トラックや燃料電池バイクの実証実験などを、民間事業者と共に実施してきた。
- 令和 2 年 12 月には、「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が国において策定され、14 の重要分野の中に「水素」も位置付けられた。
- また、市は、「2040 年度温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指し、「脱炭素社会へのチャレンジ」を表明している。
- これらを契機に、脱炭素社会の実現に向け、燃料として利用する際に二酸化炭素を排出しない水素への期待が高まっている。
- そのため、市も今まで以上に水素普及を促進していく必要があり、中部水素ステーションの機能を強化するとともに、まちづくりへの水素実装を見据え、民間事業者との連携強化などに取り組む。

2. 取組みの方向性

- 中部水素ステーションの機能強化
グリーン水素のブランディングを図り、コスト低減や営業日数拡大など中部水素ステーションの機能強化を図る。
- 水素需給の拡大
水素供給の拡大に向け、市内の水素ステーションの空白地域を中心に、民間事業者との導入協議等を進める。
水素需要の拡大に向け、民間事業者との取組みを強化し、FCV の普及や新たな FC モビリティの実証・実装、水素利活用機器の導入促進などに取り組む。

○水素エネルギー関連産業の振興

民間事業者や大学等との連携強化を図り、水素実装に向けたネットワーク構築を進める。

研究開発や実証・実装を通じてビジネス化につなげていく。

3. 中部水素ステーションについて

(1) 今後の進め方

○中部水素ステーションは国土交通省「下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）」により建設され、設備は国所有となっている。令和3年度末で研究期間が終了する予定であるが、今後はより幅広く柔軟に活用するため、令和4年度以降、市が施設を買い取る方向で、国と協議していく。

○利用者の利便性向上を図るため、営業日数を現在の週1日から週4日以上に拡大する。

○水素ステーションの稼働に必要な電力について、再生可能エネルギー由来電力を導入するなど、より一層の脱炭素化を進める。

○確実な運営ができる組織を構築するため、民間事業者と共に新たな共同体を設立し、民間事業者のノウハウを活用して運営体制を強化していく。

○新たな共同体の構成員については、水素リーダー都市プロジェクトの取組みに賛同する民間事業者を広く募集する。

(A) 水素ステーションの運営経験を有し、運営に関与可能な民間事業者

(B) 水素普及促進などに関与可能な民間事業者

○運営費は、市負担金のほか、民間事業者の負担金等を充てることとする。

(2) スケジュール

- | | | |
|-------|-----|--------------------------|
| ・令和4年 | 1月～ | 共同体に参画する民間事業者を募集（～2月中旬） |
| ・令和4年 | 3月～ | 新たな共同体の設立 |
| ・令和4年 | 3月末 | 現体制による運営終了 |
| ・令和4年 | 4月～ | 水素ステーション買取り協議開始 |
| ・令和4年 | 8月頃 | 水素ステーションリニューアル（新体制の運営開始） |